

【様式】 令和7年度 福井県立盲学校 学校関係者評価書

(問)

- ・学校評価書の成果と課題は適切か。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策は適切か。

(意見を聞いた方)

本校PTA役員(会長、会計監査)、福井県盲教育振興会会長、羽二重ねつと代表(学校眼科医)、福井県視覚障害者福祉協会会長、仁愛大学准教授(元SC)

<教育課程・学習支援>

【ご意見】

・中途失明や進行性の疾患を持つ生徒に対し、将来を見据えて早期から点字に触れる機会を確保すべきではないか。また、ICT(iPad等)は便利だが、場面に応じてルーペや単眼鏡を使いこなすスキルも不可欠であると考えます。

【回答】

・自立活動や各教科の時間において、個々のニーズに応じた点字指導を継続・強化していく。また、ICTと補助具を状況に応じて使い分けられるよう、意図的な指導場面を設定していく。

【ご意見】

・点字指導は、どれくらいの先生が教えることができるのか。

【回答】

・点字を触読で読める教員は一握りだが、点字を目で読んで指導することは可能である。スキルが断絶しないように、「点字研究部会」で研修などを開催し、点字の指導について研修をこれからも行っていく。

<生徒支援>

【ご意見】

・生徒数減少が課題。文化祭・弁論大会などでの熱量と成長が学校の強みと考える。文化祭において、少ない生徒数でも全員で何か一つのものを作り上げるような内容を検討してほしい。

【回答】

・「協働的な学び」は本校の課題である。現在、中学2年生が大東中学校で体育・音楽を週3時間履修し相互に良い刺激となっている。また、理療科や寄宿舎でも積極的に他校との交流を取り入れている。校内においても、生徒会の縦割り活動、学校祭の内容の検討など、全員での取組を更に充実させていく。今後は、地域住民の方との交流も拡大していきたい。

<寄宿舎生活>

【ご意見】

・週末の寄宿舎利用はしていないのか。また、以前行っていた週末の寄宿舎の行事は今はないのか。

【回答】

・週末は閉舎が基本である。寮生会が企画する様々な行事を平日に実施している。今後も日常生活につながる支援を充実させていく。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

会議での意見を反映し、以下の3点を重点的に学校運営に活かしていく。

- ① 視覚障がい教育の専門性の確実な継承と指導
 - ・本人の課題を的確に捉え、将来を見据えた専門スキルの習得を自立活動の時間を軸としつつ、教科指導の中でも横断的に取り入れていく。
- ② 外部交流の拡大と「協働的な学び」の充実
 - ・少人数の強みを生かした個別最適な学びと、様々な交流及び積極的な共同学習の取組などを通して協働的な学びを更に推進していく。
- ③ 教育相談の充実と啓発活動の更なる推進
 - ・教育相談を更に充実させ、関係機関との連携を通じて早期支援に繋げる。本校の専門性や手厚い支援体制を広く発信し、理解促進及び啓発活動に努める。

これらの活動を通じ、県内唯一の視覚障がいの教育機関としての自覚をもち、幼児児童生徒が安心して挑戦し続けられる学校づくりを推進していく。